



慶應義塾大学ビジネス・スクール

株式会社メガチップス

シリコンバレーのメガチップスは単なるハイテクの動向を探るセンサーにはしない。同じベンチャーとしての企業文化をもつわれわれの技術は、シリコンバレーで受け入れられて始めてアメリカに展開できると考えてます。

5

—————1997年7月28日インタビューにて—————

淡々としたこの進藤社長の言葉には、我が国LSI産業の草創期から携わってきた技術者としての自信と、創業7年目を迎えるメガチップスの更なる発展への期待が伺える。株式会社メガチップスは1997年11月アメリカ最大のコンピュータ情報通信関連の見本市コムデックスへの出展と同時にいよいよシリコンバレーへ進出する。当社はシステムLSIの専門サービスを行なうため1990年に設立され、なかでも画像分野の技術に特化している研究開発型ファブレス企業である。1996年3月通産省の特定新規事業法認定企業第1号¹となり、また1997年1月には日経優秀製品賞²を獲得する。97年3月期の売上は16,846百万円と実にこの7年間で34倍近い成長を遂げている。従業員77名中50人がエンジニア（97年8月現在）。その事業展開はまさに「筋金入り」のベンチャーと呼ぶにふさわしい。

10

15

1. 株式会社メガチップスの概要

20

(1) 事業内容

当社は創業以来、システムLSIとりわけ「画像分野」のLSIにこだわり続けて来た。そしてこの分野に特化していけばいく程、その技術はマルチメディアの波に乗り、社会のニーズとともに裾野を広げ、独自の強みとして蓄積されていく。設立当初は受託開発中心であった事業も、現在ではLSI製品からシステム製品まで、多様な製品を企画から、開発、生産（外部の生産パートナーに委託）販売まで一貫して展開している。現在の具体的な事業分野は以下の通りである。

25

¹ ストックオプション制度の利用だけを目的とした新規事業法認定第1号企業となった。

² 当社製品の動画像をリアルタイムで圧縮、伸長するボード「PC-RV」が受賞。

30

本ケースはクラス討議の資料とするために慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授の千本倅生が（株）イナクトの高山信彦、MBA学生小林寿子の協力のもとに公表データおよび取材によって作成したものである。（1997年9月作成）よって特定の経営管理上の適切あるいは不適切な状況を例示しようとするものではない。